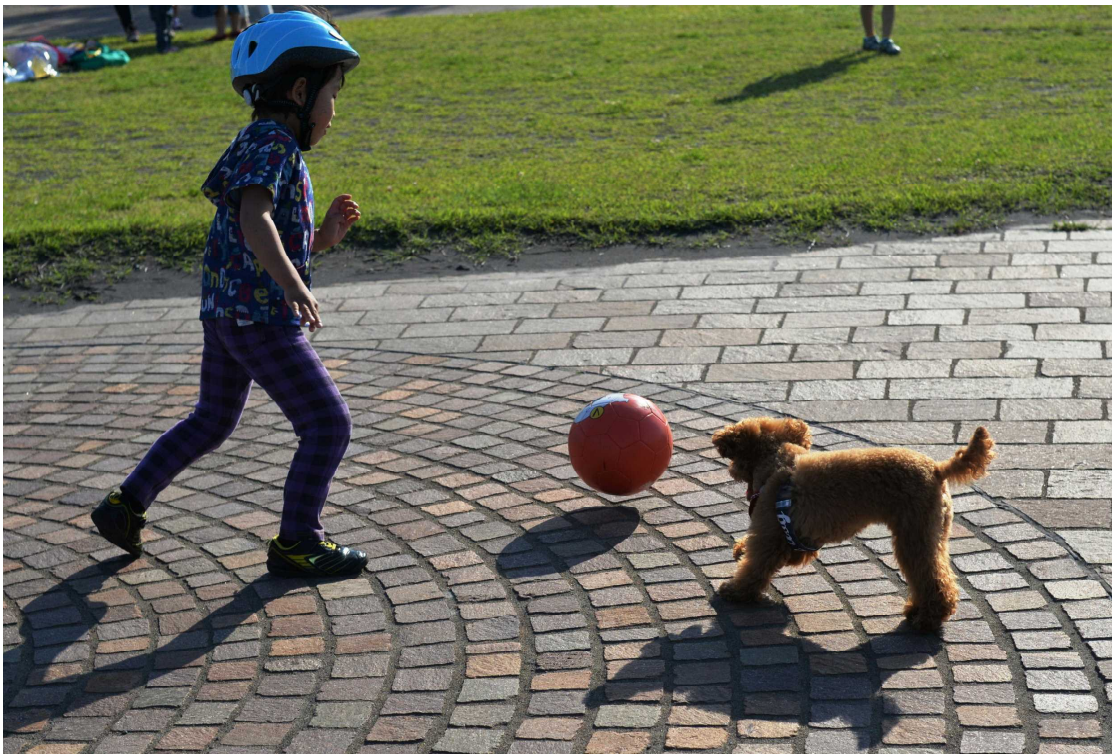


平成29年度

鹿児島学習定着度調査結果及び対策

[平成30年1月調査]



平成30年5月

鹿児島市教育委員会

目 次

I	本報告書の見方	1
II	調査結果の概要	2
III	学力調査の結果	4
1	国語	4
2	社会	12
3	算数・数学	20
4	理科	28
5	英語	36
IV	学習状況調査の結果	42
V	今後の対策－主体的・対話的で深い学びを実現するために－	48

表紙写真：福元 徹

I 本報告書の見方

本調査の結果及び対策は、鹿児島県教育委員会が平成30年1月に実施した鹿児島学習定着度調査における鹿児島市に係るものです。

については、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

【調査内容に関する表記について】

本調査では、学力調査と学習状況調査が行われています。学力調査は、次の二つの内容で出題されています。

- ① 主として「基礎・基本」に関する問題・・・本書では、「基礎・基本」と示しています。
- ② 主として「思考・表現」に関する問題・・・本書では、「思考・表現」と示しています。

②の問題は、次の内容を問うものであり、本書では各教科ごとに「思考・表現1」などと番号を用いて示しています。

教科名	番号	主として「思考・表現」に関する問題の内容
国 語	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	身近な資料を用いて、表現の仕方や文章の特徴を捉え、自分の表現に役立てることができるようにする問題
	3	複数の情報を関連付け、それを基に自分の考えを論理的に書くことができるようにする問題
社 会	1	社会的事象の特徴や背景・原因等について、自分の考えを筋道立てて説明する問題
	2	提示された資料を関連付けたり、比較したりして読み取ったことを基に、社会的事象について説明する問題
	3	歴史的事象の相互の関係を判断したり、社会的事象について正しく説明しているものを判断したりする問題（選択肢による出題）
算数・数学	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	示された課題解決の過程を、新たな課題に活用して解決する問題
	3	課題解決の方法や判断の根拠などを言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道立てて説明する問題
理 科	1	観察、実験の結果（事実・データ）から結論を考察する問題
	2	原理、法則を他の身近な現象に当てはめて説明する問題
	3	視覚的に実感しにくい現象をモデルで説明する問題
英 語	1	「聞くこと」においては、聞き取った英語を基に、英文を完成させたり、英語の質問文に英語で答えたりする問題
	2	「読むこと」においては、文と文のつながりや段落と段落の関係、内容に合う英文選択などを問う問題
	3	「書くこと」においては、対話やまとまりのある文章における流れや文と文のつながりに留意し、適切な英文を書く問題

II 調査結果の概要

1 調査の概要

(1) 趣 旨

ア 基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等に関する学力状況及び児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況の把握

イ 市全体の状況把握、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善

(2) 内 容

小学校：国語・社会・算数・理科、児童質問紙

中学校：国語・社会・数学・理科・英語、生徒質問紙

(3) 実施日 【学 力 調 査】平成30年1月17日(水)・18日(木)

【学習状況調査】平成30年1月17日(水)～19日(金)

(4) 対 象 全ての市立小・中学校

学 校 種	学 年	調 査 実 施 校 数		調 査 実 施 児 童 生 徒 数	
		鹿児島市	鹿児島県	鹿児島市	鹿児島県
小 学 校	第5学年	76校	501校	5,090人	13,342人
中 学 校	第1学年	38校	216校	4,208人	12,067人
	第2学年	38校	217校	4,497人	12,047人

2 学力調査の結果

(1) 各教科の平均通過率

	学年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
		市	県	差(市-県)	市	県	差(市-県)	市	県	差(市-県) (H28)
国 語	小5	73.8%	73.1%	0.7	46.0%	45.8%	0.2	67.4%	66.8%	0.6 (0.9)
	中1	70.0%	68.0%	2.0	60.5%	57.6%	2.9	67.4%	65.1%	2.3 (1.2)
	中2	69.1%	68.5%	0.6	55.2%	53.2%	2.0	64.9%	63.9%	1.0 (2.5)
社 会	小5	70.0%	69.4%	0.6	56.9%	57.0%	-0.1	65.9%	65.6%	0.3 (0.4)
	中1	61.1%	59.2%	1.9	40.7%	39.3%	1.4	55.1%	53.3%	1.8 (2.7)
	中2	63.6%	61.4%	2.2	44.8%	46.9%	-2.1	58.1%	57.1%	1.0 (1.9)
算 数 ・ 数 学	小5	72.7%	72.6%	0.1	45.1%	43.9%	1.2	63.1%	62.7%	0.4 (0.6)
	中1	69.5%	67.7%	1.8	52.9%	50.6%	2.3	64.8%	62.8%	2.0 (1.2)
	中2	67.7%	66.8%	0.9	46.0%	44.3%	1.7	60.2%	59.0%	1.2 (2.4)
理 科	小5	66.3%	65.9%	0.4	72.7%	73.4%	-0.7	68.8%	68.8%	0.0 (1.1)
	中1	61.8%	59.7%	2.1	49.9%	46.9%	3.0	57.5%	55.1%	2.4 (1.6)
	中2	57.1%	56.3%	0.8	27.2%	28.5%	-1.3	46.3%	46.3%	0.0 (2.1)
英 語	中1	71.8%	68.4%	3.4	60.1%	55.9%	4.2	67.0%	63.3%	3.7 (3.0)
	中2	67.6%	64.4%	3.2	55.3%	52.6%	2.7	62.8%	59.8%	3.0 (3.6)

(2) 結果の概要

小学校、中学校のいずれも、全ての教科で「基礎・基本」及び「全体」は、県平均通過率を上回っているか同じである。ただし、「思考・表現」については、小5と中2の社会と理科が県平均通過率を下回っている。

3 学習状況調査の結果（主なもののみ抜粋、詳細はpp. 42-47に掲載）

(1) 主な質問に対する回答の割合

			市	県	差(市-県)
ア 家庭学習について	① 家では、自分で学習（宿題や自分で計画した学習） していますか。 ※ 「している」「どちらかといえばしている」と回答した 児童生徒の割合 (質問1)	小5	84.5%	84.1%	0.4
		中1	77.8%	79.7%	-1.9
		中2	76.0%	76.9%	-0.9
	② あなたが自分で計画を立ててやる学習の内容は、 どんなものが多いですか。 ※ 「計画を立てて学習していない」と回答した児童生 徒の割合 (質問2)	小5	11.8%	12.0%	-0.2
		中1	14.6%	15.1%	-0.5
		中2	16.8%	17.4%	-0.6
イ 学校での学習活動について	③ あなたの学級では、授業のめあて（学習目標）を 立てていますか。 ※ 「よくしている」「どちらかといえばしている」と回 答した児童生徒の割合（以下、同じ） (質問10)	小5	91.0%	90.6%	0.4
		中1	86.6%	87.8%	-1.2
		中2	86.6%	87.2%	-0.6
	④ めあてを確認した後、学習を見通す活動（めあてを 解決するためにどのように考えればよいか見通す活動） を行っていますか。 (質問11)	小5	77.3%	78.8%	-1.5
		中1	63.2%	66.4%	-3.2
		中2	61.4%	63.7%	-2.3
	⑤ 授業の終わりに学習内容を振り返る活動（ノート にまとめたり、考えたことを整理したりするなど）を 行っていますか。 (質問12)	小5	76.2%	76.2%	0.0
		中1	62.7%	64.5%	-1.8
		中2	60.3%	61.2%	-0.9
	⑥ 授業では、自分で考えたり、進んで活動に取り組 んだりしていますか。 (質問13)	小5	77.6%	78.0%	-0.4
		中1	72.0%	72.5%	-0.5
		中2	71.2%	71.3%	-0.1
⑦ 授業では、先生から教えてもらったことや友達と 話し合ったことなどを通じて、自分の考えを深めたり 広げたりすることができますか。 (質問15)	小5	73.3%	72.0%	1.3	
	中1	72.2%	71.4%	0.8	
	中2	71.6%	71.1%	0.5	
⑧ 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生 かすことができますか。 (質問16)	小5	82.2%	82.1%	0.1	
	中1	73.3%	72.3%	1.0	
	中2	70.0%	68.4%	1.6	

(2) 結果の概要

家庭学習については、7～8割の児童生徒が取り組んでいるが、その割合は学年が上がるにつれて減少する傾向にある。

学校での学習活動については、授業のめあて（学習目標）を立てている学級は多いが、「学習を見通す活動」や「振り返る活動」は十分に行われていない状況が見られる。また、「授業では、自分の考えを深めたり広げたりすることができます」、「授業で学んだことをほかの学習や普段の生活に生かすことができます」と回答した児童生徒の割合は県を上回っているが、「自分で考えたり、進んで活動に取り組んだりしている」と回答した児童生徒の割合は県を下回っている。

これらのことから、日々の授業では、児童生徒がめあて（学習目標）の達成や学習課題の解決に向けて方向性や手立てを具体的に考え、検討し合う活動や、学習したことを個人でノート等にまとめた上で相互に確認し合ったり、類似の問題場面に活用して考えたりする活動等を一層重視し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る必要がある。

Ⅲ 学力調査の結果

1 国語

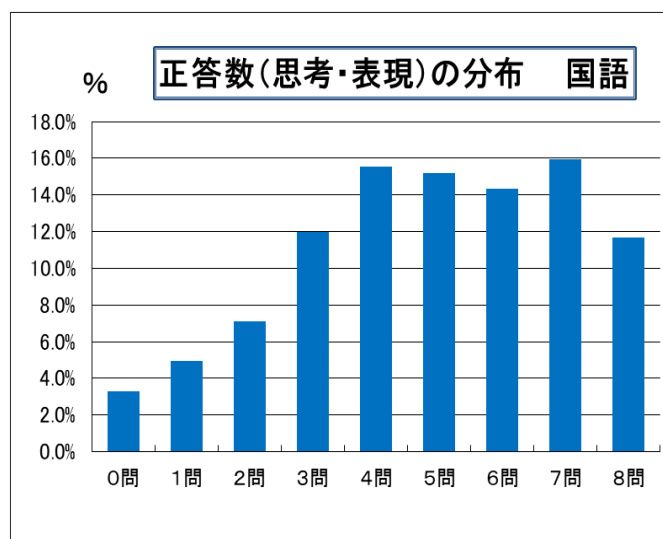
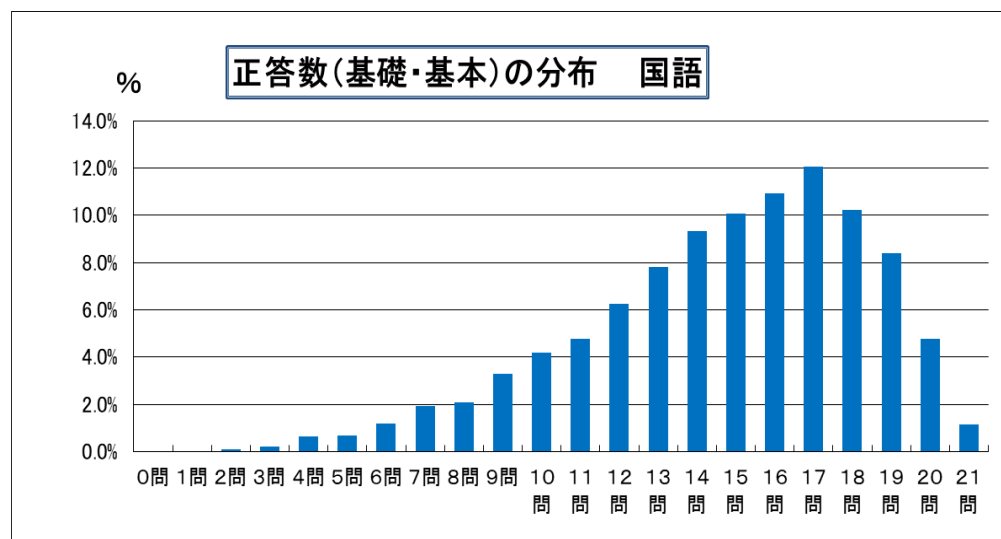
○分析 ◆対策

(1) 全体

学 年	基礎・基本			思考・表現			全 体		
	市	県	県との差	市	県	県との差	市	県	県との差
小5	73.8%	73.1%	0.7	46.0%	45.8%	0.2	67.4%	66.8%	0.6
中1	70.0%	67.9%	2.1	60.5%	57.6%	2.9	67.4%	65.1%	2.3
中2	69.1%	68.4%	0.7	55.2%	53.3%	1.9	64.9%	63.9%	1.0

【小学校第5学年】

【中学校第1学年】



【中学校第2学年】

- 全体では、小5、中1、中2いずれも県を上回っている。
- 「基礎・基本」では、いずれの学年も県を上回っているが、中2は7割に満たない状況であり、定着が望まれる。
- 「思考・表現」では、中1は県を3ポイント近く上回っているが、小5は県とほとんど同じであり、平均通過率も5割に満たないなど、課題が見られる。
- ◆ 「基礎・基本」の更なる定着に向けて、通過率の低い問題をやり直すなど補充指導を徹底するとともに、課題解決のための言語活動を位置付けた学習活動を展開し、「思考・表現」力を高める。

